令和２年６月５日

（2）豊見城市与根西部地区新産業（再生医療）拠点誘致決定に至った経緯やその理由について

平成29年７月に、沖縄県ものづくり振興課から、予算化はこれからであるが、豊見城市に細胞培養加工施設を整備し、再生医療拠点を作り、医療機器に関する企業を集積していきたい旨の話があった。

翌月、市長に対し、沖縄県商工労働部から、本事業計画についての説明が行われた。その内容は、沖縄県アジア経済戦略構想推進・検証委員会において、細胞培養加工施設（以下「ＣＰＣ施設」という。）の整備等による再生医療のアジア展開に向けた方策が検討され、今回、その施設を豊見城市の与根地区に整備したいと考えているとのことであった。

その後、沖縄県や与根西部土地区画整理組合等の関係機関との情報交換を進めていたが、当時の沖縄県のＣＰＣ施設整備スケジュールと本市の区画整理事業のスケジュール（仮換地が平成31年夏予定）が合わないなど、他いくつかの懸念事項があったため、平成30年12月に、一旦、断念することになった。

令和元年６月に、沖縄県へ本事業計画の進捗状況等について伺ったところ、県では本市に代わる候補地を決定しておらず、本市との共同プロジェクトと位置づけて本事業を進めていきたいとの話であったことから、その旨を持ち帰り、懸念事項となっていた区画整理事業スケジュールや再生医療関連の企業誘致に係る県との連携などについて、本市関係課と再検討を行い、沖縄県と情報交換を進めながら、11月に市有地利用対策委員会、12月に市有財産有効利用審議会を開催し、県のＣＰＣ施設を本市与根西部地区に誘致することについて、今日まで検討を行ってきたところである。

以上

与根西部地区新産業拠点地区誘致方針

基本方針
新たな「とみぐすくブランド」の構築につながる産業を誘致する。

具体的事項
1 与根西部地区の立地を最大限に活かし、地域活力を創出する産業の誘致を推進する。 2 他分野へも好影響を及ぼし、新たな雇用を創出する産業の誘致を推進する。

誘致方針策定の目的

新産業拠点地区の誘致にあたっては市上位計画を具現化する産業を誘致し、市の発展に寄与する（上位計画等については、後述「誘致方針策定に係る経緯」を参照）。

基本方針

新たな「とみぐすくブランド」の構築につながる産業を誘致する。

豊見城市にはマンゴー、トマト等を始めとする特産品が一定程度、ブランド化されている。豊見城市自体のブランド力を高め更なる投資を生むような経済の好循環を生むため、これら以外の新たなとみぐすくブランドとなるような高付加価値型の産業の誘致を推進する。併せて、既立地産業の事業拡大を促進し、既立地産業のブランド化の促進も図る。

具体的事項

1 与根西部地区の立地を最大限に活かし、地域活力を創出する産業の誘致を推進する。

那覇空港や那覇空港自動車道のインターチェンジへの近接性を活かし、各種の県内需要又は今後更なる発展が見込めるアジア市場の需要に旺盛に応え得る事業展開を行う事業者の誘致を推進する。

（1）物流関連産業の集積を推進する。

①既立地企業の新たな投資を促進し、事業の拠点化を支援する。

②既立地企業等と連携することで相互の操業環境の向上に資する企業の誘致を推進する。

③市内雇用の創出に努める企業の誘致を推進する。

（2）医療関連産業の拠点形成を推進する。

①国や県の行う医療関連施策と連携することにより、医療産業における本市の地位確立につながる企業の誘致を推進する。

②隣接する健康増進拠点地区に立地する医療機関等と連携する等、地域の強みを生かした先端医療技術の開発に貢献し得る企業の誘致を推進する。

③県内、市内出身の高等教育を受けた理系人材の雇用確保につながる企業の誘致を推進する。

④既存の医療の枠に捉われずに隣接する地域の他産業との連携を行い、新たな事業展開に努める企業の誘致を推進する。

2 他分野へも好影響を及ぼし、新たな雇用を創出する産業の誘致を推進する。

誘致する産業自体が豊見城市へ好影響を及ぼすものであることはもちろんのこと、隣接する地域での事業展開や既立地産業との連携により相乗効果を生み、新たな雇用を創出する産業の誘致を推進する。

誘致方針策定に係る経緯

豊見城市のまちづくりの長期的かつ基本的な指針となる最上位の計画として、豊見城市総合計画が定められている。現行の第４次総合計画（2011年度～2020年度）において産業創造のまちづくりにあたっては、①幅広くブランド化可能な資源を新産業の育成に結び付けること、②情報通信や観光産業、ウェルネス産業など本県のリーディング産業となる高付加価値型の産業を誘致すること(後期基本計画P95)、③他分野の施策との連携を図り安定的な雇用の継続と新規雇用の創出に努めること(同P97)とされている。

これをうけて、都市計画マスタープラン（2017年度～2026年度）では、都市づくりの目標の一つに雇用と活力を生み出す産業の振興を掲げ、西海岸地域に産業振興に資する都市的土地利用を誘導し、新たな産業（医療、健康など）や物流拠点の形成も図りながら、多くの雇用や地域活力を創出する産業の場づくりを進めるとしている（都市計画マスタープラン P36）。この計画の中で、与根の北西部については、物流系のみならず、豊見城中央病院（友愛医療センター）の移転を契機に、医療系の関連施設が集積した広域的な健康・医療機能の拠点としての環境充実を図るとある（都市計画マスタープランP51）。

都市計画マスタープランの位置づけの下、与根西部地区地区計画では、与根西部地区を新産業拠点地区と健康増進拠点地区とに区分し、新産業拠点地区について、既存施設等の操業環境の向上とともに、交通利便性を活かした新たな産業振興のため、工業、流通・業務施設等の立地を図るとされている(与根西部地区地区計画P2)。

新産業拠点地区の誘致にあってはこれらの上位計画を具現化する産業を誘致することとした。

豊見城市与根西部地区新産業拠点地区における再生医療産業拠点形成に関する基本的な考え方

【グランドデザイン】

令和2年6月

豊見城市産業振興課

目　　次

第１章　グランドデザイン策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・２

１　地域の具体的な将来像を示す。
２　市として考える再生医療産業拠点形成の基本的な方針を示す。
３　再生医療産業拠点形成に対する地域の理解を深める。

第２章　基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

１　細胞培養加工施設を核として、コンパクトな医療産業クラスターを目指す。
２　地域医療と連携し、地域の強みを生かした最先端医療技術の開発に貢献する。
３　市内・沖縄県内出身の理系人材の雇用を確保する。
４　西海岸地区の観光産業との連動を目指す。

第３章　再生医療産業拠点の形成を促進する理由・・・・・・・・・・３

１　再生医療産業を取り巻く近年の状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
２　再生医療産業拠点の形成を推進する理由・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　　～なぜ、とみぐすくで再生医療なのか～
３　再生医療産業拠点の形成を推進する上での優位性・・・・・・・・・・・１１
　　～なぜ、与根西部地区なのか～

第４章　その他各種計画との整合性・・・・・・・・・・・・・・・・１３

第1章　グランドデザイン策定の目的

1　地域の具体的な将来像を示す。

再生医療産業拠点形成をとおして実現すべき与根西部地区の具体的な将来像を示し、市民や事業者とその共有を図る。

2　市として考える再生医療産業拠点形成の基本的な方針を示す。

将来像実現に向けて、再生医療産業拠点形成に関する基本的な方針を示す。

3　再生医療産業拠点形成に対する地域の理解を深める。

具体的な将来像を示し、その実現に向けた基本的方針を示すことで、地域の理解を得ながら、地域と共に再生医療産業拠点形成の実現を図る。

第2章　基本方針

再生医療産業拠点の形成を推進するにあたり、以下を基本方針とする。

1　細胞培養加工施設を核として、コンパクトな医療産業クラスターを目指す。

・細胞培養加工施設を誘致し、有機的に連動する企業群の調査等を行い、厳選した企業誘致を行う。

2　地域医療と連携し、地域の強みを生かした最先端医療技術の開発に貢献する。

・地域医療機関と連動しやすい企業群を誘致し、地域での最先端技術の開発に資する。

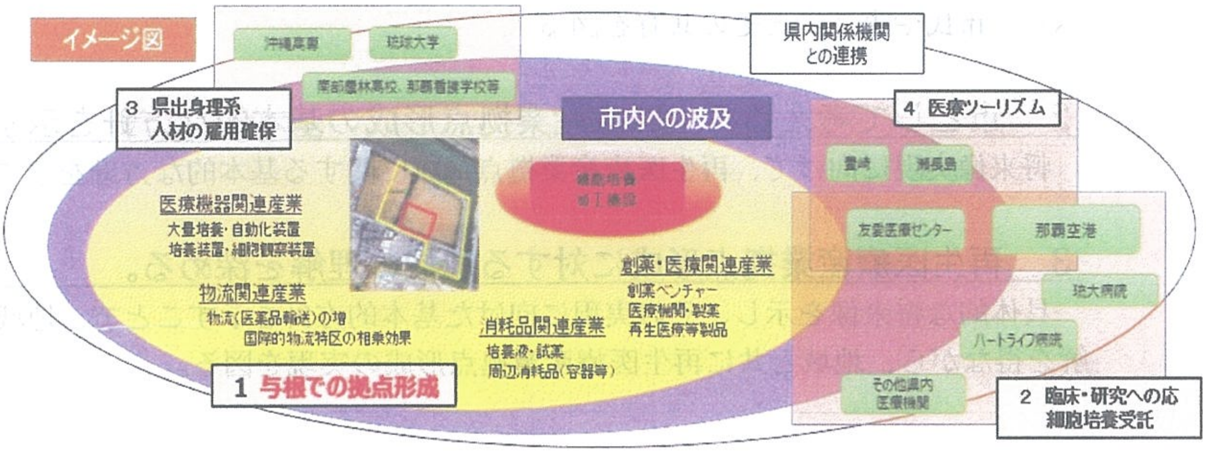
3　市内・沖縄県内出身の理系人材の雇用を確保する。

・県外大学、琉球大学、沖縄高専等の高等教育機関における卒業生など、専門性を蓄積した県出身理系人材の雇用の受け皿を、市内に確保する。

4　西海岸地区の観光産業との連動を目指す。

・瀬長島・豊崎地区を巻き込んだ医療ツーリズムの仕組み作りを推進する。

基本方針を定め、再生医療産業拠点の形成を推進するにあたっては、再生医療産業を取り巻く近年の状況、本市上位計画との整合性、与根西部地区における優位性等を考慮に入れ検討を行った。



第３章　再生医療産業拠点の形成を推進する理由

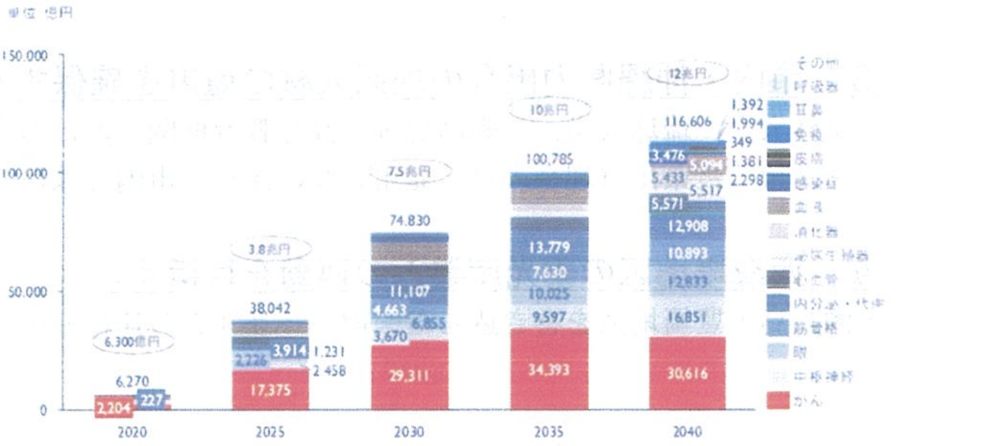
１　再生医療産業を取り巻く近年の状況等

（１）世界概況

①　再生医療を含む先端医療のニーズが高まっており、再生医療による細胞培養需要は増大している。

(沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定調査報告書 P31㈱三菱総合研究所、2016.3)

②　再生医療等産業のグローバル市場規模は、2030 年には 7.5 兆円（対 20 年比約 12 倍)、2040 年には 12 兆円（対 20 年比約 20 倍）に達すると予想されており、2040 年以降もさらに市場が拡大する可能性もある。



(令和元年度 AMED 委託調査「再生医療・遺伝子治療の市場調査業務」)

③　医療と観光をセットで希望する先進国や中東の富裕層が増加している。平成 20（2008）年の医療ツーリストは約 600 万人、市場は平成 24（2012）年で 8 兆円規模となっている。

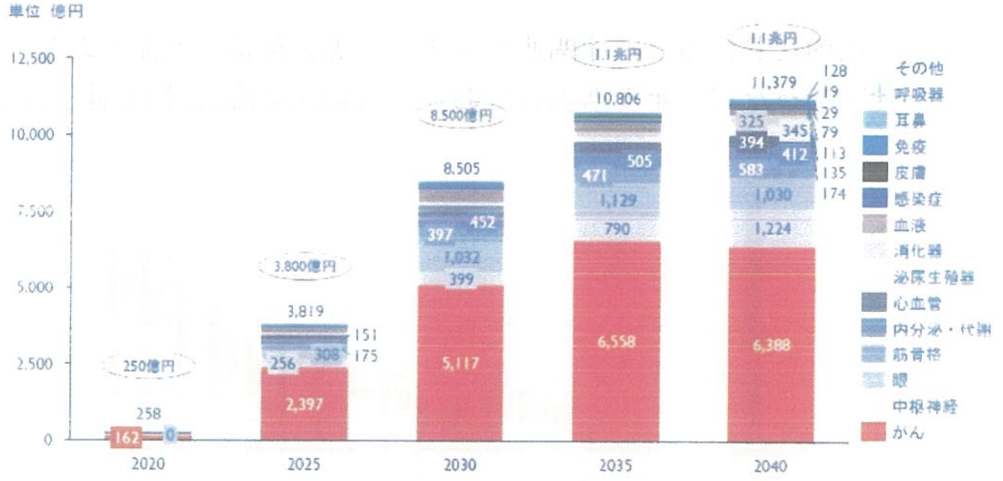
・例として、韓国ではメディカルツーリズムに再生医療を組み込み、利益を囲い込むビジネスモデルを形成している。仁川国際空港近傍に病院と再生医療ベンチャーを配することで、利便性を向上し、メディカルツーリズム患者の航空料金を割り引くサービスを行っている。一部には、施設や食事、サービス等が高級ホテル並みの病院もある。

（沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定調査報告書 P21㈱三菱総合研究所、2016.3）

（２）日本国内概況

①　2006 年に山中伸弥教授が「iPS 細胞」の作成に成功し、2012 年にノーベル医学・生理学賞を受賞。

②　再生医療等産業の国内市場規模は、2030 年には 8,500 億円（対 20 年比約 34 倍）、2040 年には 1.1 兆円（対 20 年比約 45 倍）に達すると予想されており、2040 年以降もさらに市場が拡大する可能性もある。



（令和元年度 AMED 委託調査「再生医療・遺伝子治療の市場調査業務」）

（３）沖縄県内概況

① 沖縄県は、以下のことから、再生医療研究の進展において国内トップレベルの強みを持つと言える。

ア ロート製薬が琉球大学へ再生医療研究センターを寄贈し、同社が取り組んでいる脂肪幹細胞を使用した再生医療の共同研究を行う。*(2015 年)*

・ 同社は、分化能や効果の優れた沖縄県特有の脂肪組織由来幹細胞を見出し、細胞の特性解析、さまざまな薬効薬理評価をもとに各種疾患に対する治療薬を開発していくとしている。現在、琉球大学第 3 内科を中心として、他家脂肪幹細胞等を活用した再生医療等製品の開発について、名古屋大学等と共同研究の体制構築を進めている。

イ 沖縄県先端医療産業開発拠点形成事業により、沖縄高専、佐賀大学医学部、㈱澁谷工業（石川県）、㈱サイフューズ（東京）が連携し、沖縄を拠点とした再生医療の産業化を目指す。*(2015 年)*

・沖縄高専、佐賀大学医学部、㈱澁谷工業（石川県）、㈱サイフューズ（東京）が連携し、細胞塊積層装置（バイオ３Ｄプリンター）を開発。*(2018 年)*

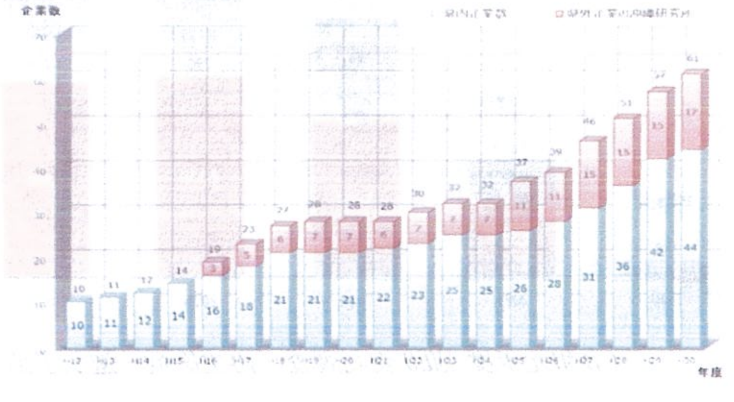
ウ 琉球大学が、脂肪幹細胞を使った再生医療の臨床研究を開始し、国内初となる培養した脂肪組織由来細胞を顔面変形の患者へ移植し成功。*(2016 年)*

(沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定調査報告書 14P㈱三菱総合研究所、2016. 3)

エ 琉球大学が脂肪幹細胞を附属病院などで採取し、同大学部で大量に保存、将来的に高品質で安全な脂肪幹細胞を提供できる体制を国内で初めて立ちあげ。*(2017 年)*

② 県内におけるバイオ関連ベンチャー等の集積が進んでおり、平成 12 年は 10 社であったが、年々増加しており、令和元年度には 64 社となっている。

(県提供資料)



③　国内トップレベルの強みを持つ半面、専門性を蓄積した県内理系人材が県外へ流出しているという課題がある。

【沖縄高専】就職者のうち県外企業へ内定した学生の割合は96%
（生物資源工学科は100%）

【琉球大学】工学部の県外就職者は58.6%
理学部の県外就職者は45.8%

(沖縄高専「平成31年3月卒業予定者の進路状況」)
(琉球大学「平成30年度学部卒業生の進路状況」)

（4）市内概況

①　豊見城中央病院が東京女子医科大学と再生医療で連携する協定を締結し、同大学が開発した細胞シート培養と治療技術を病院へ移転。*(2015年)*

②　国家戦略特区諮問会議にて、豊見城中央病院の再生医療など先進技術による医療ツーリズム事業を展開する高度医療提供事業が認定され、医療法の特例により、基準病床数とは別に１８床が割り当てられる。*(2016年)*

③　豊見城中央病院（及び中頭病院）が「細胞シート工学」技術の臨床応用を行い、世界初となる早期食道がんESD治療後の食道狭窄症に対する細胞シート移植実施。*(2018年)*

2　再生医療産業拠点の形成を推進する理由
～なぜ、とみぐすくで再生医療なのか～

１で掲げた背景も踏まえ、以下の観点から、豊見城市総合計画をはじめとした上位計画の実現につながると考えられるため、本市において、再生医療産業拠点の形成を推進する。

（１）　新たな産業の育成・とみぐすくブランドの構築・企業誘致

第４次豊見城市総合計画（2011-2020）
後期基本計画（2017-2020）
第５部　地域特性を活かした産業創造のまちづくり～産業分野～
第２章　新たな産業の創造
第２節　新産業の育成・創出
⑴ 新たな産業の育成
⑵ とみぐすくブランドの構築
⑶ 企業誘致（本県のリーディング産業となる高付加価値型の産業の誘致を推進）

沖縄県のリーディング産業としては観光リゾート産業、情報通信関連産業があげられるが、「健康・医療」分野について、沖縄県 21 世紀ビジョン基本計画においては、今後成長が見込まれる産業の創造、活性化を図るとある。県の各計画を横断的に補完し、強化する沖縄県アジア経済戦略構想においては、日本に続いて超高齢化社会を迎えるアジアに対する課題解決モデルの確立を目指して、先端医療・健康・バイオ産業が産業成長戦略に掲げられ、その関連機関や企業誘致等を行っていくとある。

このように医療産業は観光・情報通信産業に次ぐ本県のリーディング産業となっていく産業であるといえるが、１（４）で掲げたとおり、本市には、世界に通じる先端医療（再生医療）技術を有している医療機関が立地しており、本市にとっても新産業として、有望な産業であるといえる。

こうした中で、当該医療機関周辺に関連企業等を誘致し、再生医療産業拠点を形成していくことは、新産業の育成につながるものと考えられ、今後、当該医療機関と再生医療産業拠点の連動が図られ新産業として成長していけば、例えば「最先端医療のまち　とみぐすく」といったようなイメージが定着し、ブランド化につながる可能性もある。

（２）雇用の安定・雇用の創出

第４次豊見城市総合計画（2011-2020）
　後期基本計画（2017-2020）
　　第５部　地域特性を活かした産業創造のまちづくり　～産業分野～
　　第３章　雇用の安定と促進
　　第１節　雇用の安定と促進
　　　⑴ 雇用の安定
　　　⑵ 雇用の創出

再生医療研究の進展において本県においては、国内トップレベルの強みを持つ半面、１（３）③で掲げるとおり、専門性を蓄積した県内理系人材が県外へ流出しているという課題がある。再生医療産業拠点の形成を推進し、関連企業の誘致が進み、新産業として発展することで、理系人材にとって良質な雇用の場が創出され、課題の解決に資する可能性がある。

また、理系人材にとって良質な雇用の場が創出されることで、本市の将来を担う子どもたちにとっても、将来の可能性・選択肢が広がることにもつながるものと考えられる。

（参考1）主要バイオベンチャーの給与ランキング2017年度

順位	会社名	平均年間給与(千円)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	売上(百万円)
1	メディノシバ	32,271	52.0	8.8	0
2	ソレイシア・ファーマ	15,767	48.4	3.7	410
3	シンバイオ製薬	11,950	48.9	4.4	3,444
4	そーせいグループ	10,877	46.5	4.3	6,955
5	サンバイオ	10,096	41.6	1.7	490
6	ペプチドリーム	9,936	40.8	3.2	4,895
7	アンジェス	8,862	48.3	5.7	365
8	ジーエヌアイ グループ	8,739	46.9	3.5	2,648
9	ブライトパス・バイオ	8,653	44.1	3.3	354
10	シミックホールディングス	8,365	43.8	6.4	65,282
11	オリンコスバイオファーマ	7,508	42.7	3.5	229
12	ラクオリア創薬	7,391	44.8	7.0	1,419
13	カイオム・バイオサイエンス	6,898	41.3	3.9	259
14	ナノキャリア	6,852	44.1	5.7	259
15	ヘリオス	6,672	41.2	2.0	27

（参考2）国内製薬企業給与ランキング2017年度

順位	会社名	平均年間給与(千円)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	売上(百万円)
1	第一三共	11,039	42.5	18.5	960,195
2	アステラス製薬	10,795	43.2	17.8	1,300,316
3	大塚ホールディングス	10,763	44.3	3.5	1,239,952
4	エーザイ	10,447	44.7	20.2	600,054
5	武田薬品工業	10,388	40.8	14.7	1,770,531

（3）多彩な観光プログラムの提供、新たなツーリズムの育成

> 第４次豊見城市総合計画（2011-2020）
> 　後期基本計画（2017-2020）
> 　　第５部　地域特性を活かした産業創造のまちづくり　～産業分野～
> 　　第２章　新たな産業の創造
> 　　第１節　観光・リゾート産業の振興
> 　　　　⑶多彩な観光プログラムの提供
> 豊見城市観光振興計画（2013）
> 　　　　施策４-取組②　新たなツーリズムの育成

本市の、与根・瀬長・豊崎地区は観光振興地域『エアウェイリゾート』の指定を受け、恵まれた自然・文化環境の中に、観光・リゾート施設、観光関連の商業施設など各種事業所が調和した新しい街づくりが進められており、これらの地域の持つ魅力と連携が図れ、相互地域の価値を高める新産業の創出が望まれる。１（４）②に掲げるとおり、民間において、医療ツーリズムへの展開が模索されているため、再生医療産業拠点が形成され、当該拠点と与根・瀬長・豊崎地域に既立地の産業が相乗効果を生み出すことができれば、新たな産業の創出・育成へとつながる可能性がある。

医療ツーリズムの展開に資する本市西海岸地域の主な観光資源については次のとおり。

①　隣りの楽園『瀬長島』

一括交付金（沖縄振興特別推進市町村交付金）が創出されたことにより、行政、民間一体となった開発が可能となった。島内には、宿泊施設、温泉施設のほか、野球場、商業施設、遊歩道、展望台などがあり、市内外から多くの人が訪れにぎわいをみせている。主な観光資源は次のとおり。　*(豊見城市公式HP)*

ア　瀬長島ウミカジテラス：
　沖縄ならではの果物・野菜、地産メニューを中心にしたグルメ・スイーツショップ、Made in OKINAWA のジュエリーやクラフトショップが絶好のロケーションと融合する、沖縄の新しい観光・ショッピングスポット。

イ　瀬長島ホテル

ウ　琉球温泉　龍神の湯

エ　瀬長ビーチ

② ２１世紀型の街『豊崎タウン』

豊見城市地先に総面積160haの壮大なスケールで誕生した”21世紀型の街”豊崎タウンは、恵まれた自然環境の中に、観光・リゾート施設、観光関連の商業施設など各種事業所が調和した新しい街づくりが進められている。主な観光資源は次のとおり。

ア　美らＳＵＮビーチ：那覇空港から車で約１５分のリゾートスポット。

イ　豊崎海浜公園：開放的な芝生広場が広がる総合公園。

ウ　沖縄アウトレットモールあしびなー：県内唯一のアウトレットモール。

エ　豊崎ライフスタイルセンターＴＯＭＩＴＯＮ（トミトン）：
グルメ、ファッション、スポーツ、雑貨、エステサロン、美容室など約30店舗が出店し、豊崎タウンで暮らす住民の生活拠点となっている大型ショッピングセンター

オ　道の駅「豊崎」：日本最西端の道の駅

カ　豊見城市観光プラザ　てぃぐま館：
観光情報発信、体験教室、県内手づくり品の展示販売、市特産品「ウージ染め」商品の販売

キ　沖縄特産市場　ＹＯＮＥＲ’Ｓ：
蛇口から出てくるシークヮーサージュースが飲み放題

ク　ホテルグランビューガーデン：
プールや大浴場もあり、客室からは、オーシャンビューや、慶良間諸島に沈む最高の夕焼け、那覇空港滑走路の夜景が楽しる。

ケ　ＤＭＭかりゆし水族館：
最新の映像表現と空間演出を駆使した新しいカタチのエンタテイメント

コ　イーアス沖縄豊崎：
豊崎タウンに新たなにぎわいを創出する市内最大の複合商業施設。

本市西海岸地域の主な観光資源については以上であるが、沖縄県全体として見た場合、国内においては有数の観光・リゾート地としての評価を得ている一方で、国際的な観光地という点では、競合するビーチリゾート地（プーケット島、ランカウイ島、セブ島、バリ島、グアム島等）が数多く存在しており、発展途上といえる。

(沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定調査報告書 P18㈱三菱総合研究所、2016. 3)

3　再生医療産業拠点の形成を推進する上での優位性
～なぜ、与根西部地区なのか～

（1）　与根西部地区の概況

①　当該地区は、那覇空港に近接し、幹線道路である3･1･2号豊見城糸満バイパス、1･3･1号那覇空港自動車道及び3･2･17号国道331号が隣接する交通の利便が高い地区である。

②　本地区においては、本市の産業振興を牽引する産業拠点として工業、流通・業務、健康・医療施設などの立地により、地域の振興又は発展を図るとともに、周辺の環境・景観と調和する良好なまちづくりを形成、誘導することが、目標とされている。　*（与根西部地区地区計画・地区計画方針）*

（2）与根西部地区において再生医療産業拠点を形成する優位性

与根西部地域において再生医療産業拠点の形成を推進するにあたり、以下の優位性があると考えられる。

①　臨空性

・国際物流ハブ機能を持つ那覇空港からのアクセス性が高く、アジア諸国を始めとした国外にとって日本製の臨床グレードの細胞が迅速に手に入るのは魅力的である。

・細胞の寿命を考えると、輸送時間の短い空港の近くでの拠点形成が最適であり、速やかに国内・アジアに提供できる環境が望ましい。　*（県提供資料）*

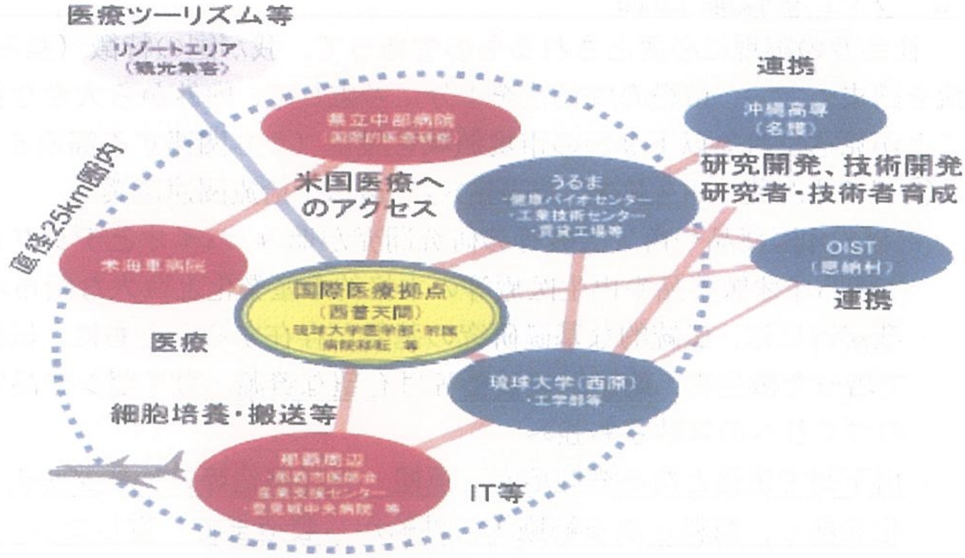
・那覇空港は２４時間運用しており、東アジアのハブとして優位性があり、空港内に整備されたＡＮＡ沖縄貨物ハブでは、毎晩、東アジアと東南アジアの 12 都市との間で、貨物専用機を就航させており、翌日配送が可能としている。また、第３国間の貨物が半分を占めており、国際的な航空貨物ハブとして発展している。

（沖縄県健康・医療産業活性化戦略策定調査報告書 18P㈱三菱総合研究所、2016. 3）

②　那覇空港自動車道へのアクセス性の高さ

沖縄県構想の西普天間国際医療拠点を始め、健康・医療産業の関連機関へのアクセス性が高い。県内の主な健康・医療産業の関連機関は次のとおり。

・　沖縄工業高等専門学校（名護市）
・　沖縄科学技術大学院大学（ＯＩＳＴ）（恩納村）
・　沖縄バイオ産業振興センター（うるま市）
・　沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター（うるま市）
・　一般社団法人沖縄健康トロピカルテクノプラス（うるま市）
・　沖縄県工業技術センター（うるま市）
・　沖縄ライフサイエンス研究センター（うるま市）
・　沖縄科学技術振興センター（うるま市）
・　琉球大学（宜野湾市）
・　再生医療研究センター（琉球大学内）
・　沖縄県農業研究センター（糸満市）
・　その他医療機関等



③　友愛医療センター（豊見城中央病院）が近接
1（4）で掲げたとおり、友愛医療センターでは、再生医療に関する取組が積極的に行われている。再生医療産業拠点を形成し、相互に連携することにより、地域医療の発展に貢献する事が期待できる。

④　土地の確保
関連企業の誘致に必要な、まとまった土地が確保されており、コンパクトな産業クラスターを形成することができる。

第４章　その他上位計画との整合性　　　　　　　（一部抜粋）

１　統合イノベーション戦略2019　　　　　　　　　　　【国】

②目標達成に向けた施策・対応策

我が国が目指すべき社会像として、全ての産業が連動した循環型社会、多様化するニーズを満たす持続的一次生産が行われている社会、持続的な製造法で素材や資材をバイオ化している社会、医療とヘルスケアが連携した末永く社会参加できる社会の４つを想定し、我が国の特徴（強み）、市場の成長性を踏まえ、以下の９つの市場領域にリソースを集中する。（うち関連する箇所を抜粋）

vi）バイオ医薬・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業

・バイオ医薬品等の本格的産業化と巨大市場創出が期待。我が国の伝統的基礎研究の基盤、発酵産業で培った微生物・細胞培養技術は有望な資源

２　バイオ戦略2019　　　　　　　　　　　　　　　　　【国】

社会像の実現に必要とされるものであって、我が国の特徴（強み）と世界の潮流を踏まえつつ、市場の成長性を十分に考慮して、内外から大きな投資を呼び込むことが見込まれる以下９つの市場領域を設定（うち関連する箇所を抜粋）

⑥バイオ医薬・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業[2]

- バイオ医薬品や再生医療等の研究開発が進み、バイオとデジタルの融合により、今後バイオ医薬品や再生医療等の本格的な産業化と巨大な新市場の創出が期待
- 我が国には、伝統的な基礎研究の基盤が存在するとともに、伝統的な発酵産業で培った微生物・細胞培養技術等は有望な資源。カイゼンや品質管理などのものづくりへの真摯さも強み
- 川下側で重要となる細胞培養・運搬・受託製造等のデジタル化・AI 化・機械化を図り、原料となる細胞等の供給から製造まで一貫したシステムを開発し、特に創薬分野の共通的な関連産業市場を押さえることで、再生医療等の本格的な産業化の際の大市場を獲得

３　沖縄21世紀ビジョン（2012-2021）　　　　　　　【沖縄県】

知的・産業クラスター形成の推進

国内外の研究機関や民間企業等の集積及び国際研究ネットワーク構築による知的・産業クラスターの形成を推進する。

その中で今後成長が見込まれる「健康・医療」分野において、沖縄の地域特性や生物資源を生かした医薬品、機能性食品等の研究開発を推進、事業化を促進するとともに、バイオ関連産業の集積を図る。

4　豊見城市観光振興計画（2013）　【豊見城市】

施策４-取組②　新たなツーリズムの育成

・市内の民間病院が進めている先端医療や温泉施設を活用したヘルスツーリズムのほか、スポーツツーリズムやリゾートウェディング、冬の避寒地、春の花粉対策の地など、既存インフラや新たに整備される施設（県立空手道会館（仮称）、市民体育館等）と連携した付加価値の高い旅行商品の開発を関係機関との連携のもと推進します。

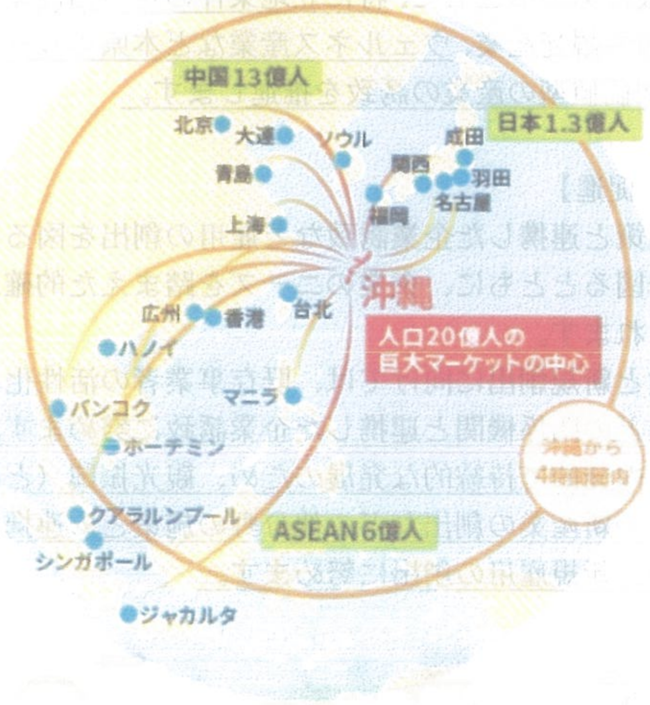
5　沖縄県アジア経済戦略構想（2015.9-）　【沖縄県】

「先端医療・健康・バイオ産業」を４つの産業成長戦略の１つに位置づけ

※その他は農林水産業、環境･エネルギー産業、地場産業･地域基盤産業

沖縄県アジア経済戦略構想推進・検証委員会から県知事へ提言（2017.11）

・医療機関等との連携による戦略的な再生医療産業創出
・細胞培養加工施設を核とした再生医療産業拠点の整備
・再生医療産業の創出に向けた細胞培養技術者等の育成
・再生医療及び医療ツーリズムの推進に向けた国家戦略特区等の活用の検討



6　第４次豊見城市総合計画（2011-2020）
後期基本計画（2017-2020）　【豊見城市】

【5-2-1 観光・リゾート産業の振興】

≪課題≫本市の地域特性を活かした、新たな観光プログラムの展開を検討し、他地域と差別化を図った観光振興を推進していくことが求められます。

≪施策≫・多彩な観光プログラムの提供

県外や国外からの誘客、本市の地域特性を活かした「とみぐすくエコツーリズム」や「健康・ウェルネス」の育成を図ります。

【5-2-2 新産業の育成・創出】

≪課題≫経済のグローバル化が進行し、国際間競争の激化や中国やインドをはじめとするアジア諸国の経済的な台頭が著しくみられます。

≪施策≫・新たな産業の育成

・とみぐすくブランドの構築

特産品に限らず、景観や動植物、人材など、幅広くブランド化可能な資源を調査・発掘し、新産業の育成に結びつけていきます。

・企業誘致

那覇空港からのアクセス性の高さなどの立地特性を活かした物流関連企業の誘致に努めるともに、特に立地条件の良い西海岸地域などを中心に情報通信や観光産業、ウェルネス産業など本県のリーディング産業となる高付加価値型の産業の誘致を推進します。

【5-3-1 雇用の安定と促進】

≪課題≫産業振興施策と連携した企業誘致など雇用の創出を図るとともに、企業のニーズを図るとともに、企業のニーズを踏まえた的確な人材育成の強化が求められます。

≪施策≫雇用の拡大と新規創出に向けては、既存事業者の活性化を支援するとともに、県などの関係機関と連携した企業誘致に努めます。企業誘致に当たっては、内発的で持続的な発展のため、観光振興（とみぐすくブランドづくり）や新産業の創出などの他分野の施策との連携を図り安定的な雇用の継続と新規雇用の創出に努めます。

ひと・そら・みどりがつなぐ 響(とよ)むまち とみぐすく

7　豊見城市都市計画マスタープラン第２版(2017)　　　【豊見城市】

5章5-1 市街地・拠点に関する方針　イ産業拠点の整備

与根の北西部については、産業用地の集積を図るため、土地区画整理事業や地区計画、開発行為などの活用による基盤整備を検討するなど計画的に取り組み、条件が揃えば市街化区域への編入について検討する。また、物流系のみならず豊見城中央病院の移転を契機に、医療系の関連施設が集積した広域的な健康・医療機能の拠点としての環境充実を図る。

8　豊見城市与根西部地区地区計画《運用基準》(2018)　【豊見城市】

地区計画方針

１．新産業拠点地区：

既存施設等の操業環境の向上とともに、交通利便性を活かした新たな産業振興のため工業、流通・業務施設等の立地を図る。

２．健康増進拠点地区：

地域災害拠点病院の立地を踏まえた健康・医療施設及び関連する各種サービス施設等の立地を図る。